

ネイルサロンの現状について

(NPO法人 インターナショナル ネイル アソシエーション)

1. ネイルサロンで使用する薬剤、器具等の詳細 (別紙)

2. つけ爪のつけ方、使い方など施術の実態

サロンで施されるつけ爪は、アクリル、ジェル、チップが一般的である。サロンにおいて、チップ（既製品）をそのまま接着剤で自爪に貼るだけという施術は一般的に行わない。お客様の爪に適したチップを装着（カスタマイズ）した後、アクリルやジェルでコーティング（オーバーレイ）するのが一般的である。

●つけ爪のつけ方（一般的な例）

アクリル（スカルプチュア）

つけ爪を密着させるため、爪の表面を削る。（つやを消し、表面に凹凸をつける。）

ダストを掃い、爪を消毒し、油分、水分を除去する。

* このとき、アルコールは水分が残ることがあるので、プレプライマーを使用することが多い。

モノマー（リキッド）を含ませた筆でポリマー（パウダー）をとって、爪にのせ、長さとし形（つけ爪）を形成する。

つけ爪が固まった後、エメリーボードで形などを整え、表面を磨く。

* この工程にカラーパウダーやラメなどを用いて装飾する施術が一般的。

ジェルネイル

つけ爪を密着させるため、爪の表面を削る。（つやを消し、表面に凹凸をつける。）

ダストを掃い、爪を消毒し、油分、水分を除去する。

ジェルを爪にのせて長さとし形を形成し、UVライトで固める。

* この工程にカラージェルやラメなどを用いて装飾する施術が一般的。

チップオーバーレイ

チップ、つけ爪を密着させるため、爪の表面を削る。（つやを消し、表面に凹凸をつける。）

ダストを掃い、爪を消毒し、油分、水分を除去する。

チップを装着し、長さ、表面、形を整える。

この上にアクリル、ジェルを用いてコーティング（オーバーレイ）する。

●施術の実態

つけ爪の施術は、お客様やサロンによって異なるが、爪の割れや折れ、二枚爪や亀裂の補強として施術するつけ爪はどのサロンでも一般的に行っている。現在は、長いつけ爪 10本を施すスカルプチュア（アクリル）は減少し、短めの自爪にジェルでコーティングを施すジェルネイルが主流となっている。

いずれの場合も、使用する材料に関する知識、施術に関する衛生的知識、つけ爪を施した後のメンテナンスから除去方法までをネイルスクールやメーカーなどの講習で学び、またサロンにおいても指導を行っている。

3. サロンの形態

サロンの定義が明確でないため、ネイルサービスを施す施設を大別すると、以下の 3 種類が一般的である。

●ネイルサロン 手だけ（マニキュア）のみの施術を行うサロン（スペース）



独立したテーブルを並べたサロンからカウンター形式のサロンまで様々。手指や器具の消毒は消毒液で対応するので、水道（排水）の設備がサロン内にはないこともある。百貨店や駅ビルなどの商業施設内に多く、施術が外から見える形態が多い。

* ペディキュアを行えるサロンと区別するため、ネイルコーナー、ネイルカウンターなどと呼ぶこともある。

●ネイルサロン 手（マニキュア）と足（ペディキュア）の施術を行うサロン（スペース）



隔離（外から見えない）スペースと水道（排水含む）の設備が必要となる。素足になるためのスペース（フィッティングスペース）や、ペディキュアを乾かす時間を過ごす席（待合席）も必要。路面店、テナントビル、マンションの一室や、百貨店などの商業施設内でも独立したスペースをもつ形態が多い。

● 他の施設に併設されたサロン（スペース）

美容室やエステティックサロンなどに併設。ペディキュアまで行える設備まで完備したサロンもあれば、一角にマニキュアを施すスペースが 1～3 席程度のサロン、ヘアと同時に施術する程度のサロンなど様々。

* 近年、ネイルを併設した美容室が増加。

4. ネイリストの資格、講習の内容

● ネイリスト（マニキュアリスト、ネイルルペシャリスト）の資格

当協会では「ネイルスペシャリスト技能検定試験」を実施。試験は、理美容学校やネイルスクールなどで基本知識および技術を学習したレベルの A 級、プロフェッショナルとしてサロンワーク対応する知識および技術を習得した PA/AA/AAA 級の 2 種類からなる。なお、PA 級、AA 級、AAA 級は実技（技術）の得点によりそれぞれ認定される。

この資格は、当協会加盟サロンにおいて採用や給与査定等に活用されている。

また、近年需要の増えたジェルネイルに関しては、「ジェルネイル技能検定試験」を実施。

「ネイルスペシャリスト技能検定試験」と同様の知識に加え、ジェルネイルに関する知識と技術で構成された試験で、技術内容に応じて 3 級、2 級、1 級の 3 種類となっている。

* NPO 法人日本ネイリスト協会でも技能検定試験を実施。

● 講習の内容

ネイルテクニックは勿論のこと、ネイルサービスに必要となる知識（理論）の講習を実施。内容は、爪の構造、病気（原因、対応法）が主になるが、ネイルサービスを施したことによるトラブル防止のため、一般的な衛生（消毒）から施術に関わる衛生、また、お客様の体の一部を触る知識として、人体のしくみなど。

* 詳細は、講習において使用するテキスト「ネイル・プロフェッショナル」参照。

5. 利用者への問診票

特に規定された問診票はない。

サロンで使用している問診票には、氏名や住所などの一般顧客情報のほか、職業やライフスタイル、既往症、アレルギーの有無などが含まれる場合が多い。

職業やライフスタイルによって、施せるネイルサービスが限定される場合や、施した後に特に注意が必要となる事項などを知ることができる。また、既往症も、施せるネイルサービスが限定されることがあり、アレルギーがある場合は、使用するネイル商材に注意が必要となる。

6. 医療機関との連帯の有無

サロンによって異なるが、お客様の爪（皮膚）に異常がみられる場合は医療機関（皮膚科）の受診を勧めるサロンがほとんどである。受診する医療機関は、サロンが提携している場合もあるが、お客様が選択することが一般的。治療が必要となる場合は、サロン、お客様、医療機関で連絡を取り合いながら対応していく。

7. ネイル業界の実態（人員、規模など）

マニキュアリストやサロンを管理監督する法的（または準じたもの）なものがない上、マニキュアリスト、ネイルサロンの定義（規定）が曖昧なこともあり、正確な把握は不可能である。

実態に関しては、NPO法人日本ネイリスト協会発行の「ネイル白書」が参考資料として適切であると思われる。

1. ネイルサロンで使用する薬剤、器具等の詳細



手指用消毒液

コットンに含ませ手指を拭き取る、手指に噴霧するなどして、施術者、お客様の手指を消毒する際に使用。

一般的には市販されているエタノール消毒液を使用する。

保管量 1,000ml 1～2本



右 エメリーボード（ファイル）＝爪用紙やすり

自爪、アクリルやジェルを削る際に使用。紙素材のものが多く、使い捨て、または洗った後消毒して使用。

左 バッファー

自爪、アクリルやジェルを磨く際に使用。



キューティクルプッシャー

専用のマシンやセラミック、メタリック素材。キューティクルを押し上げるために使用。使用後は消毒する。（消毒液で拭き、紫外線消毒器で消毒する方法が一般的。）



キューティクルニッパー

ステンレス素材が多い。ガーゼで取りきれなかったルーススキン（爪にはりついた余分な甘皮）や、ささくれを除去する際に使用。

使用後は消毒する。（消毒液で拭き、紫外線消毒器で消毒する方法が一般的。）

*甘皮を切ることはない。



キューティクルリムーバー

甘皮を押し上げやすくするために塗布する溶液。

保管量 サロンの規模によって異なるが、15ml 5～10本程度。



キューティクルオイル

お手入れ後に保湿を目的として塗布する溶液。

保管量 サロンの規模によって異なるが、使用分、販売分を含めて 15ml 5～20本程度。



ベースコート

爪に塗る液体で、カラーポリッシュの接着をよくし、色素沈着を防ぐ。

保管量 サロンの規模によって異なるが、使用分、販売分を含めて 15ml 5～20本程度。



トップコート

カラーポリッシュのもちをよくし、つやを出す液体。

保管量 サロンの規模によって異なるが、使用分、販売分を含めて 15ml 5～20 本程度。



カラーポリッシュ

爪を着色するための液体。

保管量 サロンの規模によって異なるが、使用分、販売分を含めて 15ml 100～400 本程度。



ポリッシュリムーバー

ポリッシュ類を除去するために使用する溶液。除光液と呼ばれる。

保管量 サロンの規模によって異なるが、使用分 1,000ml 2～4 本、販売分 200ml 5 本程度。



爪用消毒液、プレプライマー

つけ爪を施す際に爪を消毒し、油分や水分を除去するため、爪に塗布する溶液。

保管量 サロンの規模によって異なるが、15ml 5～10 本程度。

プライマー

つけ爪と自爪の接着をよくするためにしよする溶液。

保管量 サロンの規模によって異なるが、15ml 1～2 本程度。



モノマー (アクリルリキッド)

つけ爪用のアクリル溶液。

保管量 サロンの規模によって異なるが、118ml 1～2 本程度。

ポリマー (アクリルパウダー)

つけ爪用のアクリルパウダー (粉)。



ジェル

つけ爪用のジェル。

保管量 サロンの規模によって異なるが、使用分 4g 10～30 個程度。



ネイルグルー (レジン)

自爪とネイルチップを接着したり、爪の亀裂などを接着する溶液。

保管量 サロンの規模によって異なるが、使用分 2g 3～10 本程度。